

下松市長 國井益雄様

NPO 法人下松べんけい号を愛する会

「鉄道産業のまち 下松」

下松市制80周年記念事業 提案書

1、この提案の目的

市制80周年に当たって、2019年度を着手起点とする記念事業について、市長に提案します。

当市の対外アピールや活性化については、過去、長年にわたって費用・人員が投入されてきていますが、従来は、そのコンセプトが総花的になっていたためにインパクトに欠けた、と私たちは考えています。何が下松市の魅力なのか？ 他の市には無くて、当市だけにあるものは何か？ についてもっと煮詰めて、具体的に絞り込んだアピールをしなくては、情報過多時代の多忙な人々の心を揺さぶることは出来ないのではないのでしょうか？

他市には無くて、当市だけにあるものは、一体何か・・・笠戸島の景観と、鉄道産業企業群の技術と経済力の集積、この2つではないのでしょうか？

前者については、前市長時代から既に多額の物心の投入が行われてきましたので、ここでは割愛します。

後者について、私たちは昨年、全国的に著名な藻谷浩介氏を講師に招聘して、鉄道産業をキーワードとする町おこしについて、講演会を開催しました。

演題：「鉄道産業のまち下松」の全国発信において、今、何が必要なのか？

この提案書は、私たちのその後の試行錯誤を経て得られた、現時点の國井市長へのご提案 ラブレターです。私たちはこれまで前市長時代に何回かの提案をしてきましたが、残念ながら、キチンとした回答をいただいたことが有りません。

この提案に当たっては、私たちが得ている情報は不十分なものですが、熱意のあるところをご理解いただき、今回、ぜひとも市長の何ぶんの考え方・ご方針をお示し戴ければ、幸甚でございます。

2、なぜいま「鉄道産業の街」なのか

当市には「モノづくりの街 下松市」という、無難な表現があります。

しかし、船も電力も、更には農林漁業までも視野に入れるならば、おおよそモノづくりをしていない街は、全国、何処にもありません。だから「モノづくりの街」という言い方には、何の訴求力も無いと考えます。また、鉄道産業のある街は、日本車両の豊川市、川崎重工業の神戸市などが有りますが、各社のそれぞれの「市」における「人的・地域経済的な貢献度」においては、日立グループのある下松市はダントツの存在です。しかも日立笠戸は、その多彩な協力企業群も含めて、車両製造だけでなく、現代の交通システムを構築する全ての分野に亘って、世界を席巻している稀有の企業群です。

加えるに2021年は、日立笠戸の創業100周年にも当たり、「市制」と「創業」をレビューできるこの機会は、まさに千載一遇ともいうべき好機です。

さらに、現存する国産SLでは3番目に古い「下松べんけい号」は、いまは寝たきり老人の状態ですが、もしこれが誕生114年ぶりに復活運転できれば、TV・新聞・netの全メディアが下松市を取材して、全国の耳目を集めることによって、1億円以上の宣伝効果が期待できるでしょう。

3、仕掛けかたの原案

第①案、日立笠戸の関連において全国に情報発信する

100周年記念事業に絡んで、同社の現有の「歴史記念館」（原則非公開）を改築して、広く市民他に一般公開するという情報提供が、商工会議所などにあった、とかの噂を聞いています。

仮に、市所有の「恋が浜緑地公園」の一部分の提供でこれが実現出来るのであれば、この際の下松べんけい号を日立に寄贈して、日立の手によって修復して、公園内に円形線路を引いて走らせる「動態保存」の好機と考えます。

日立による記念館は、日立市の「日鋳記念館」「小平記念館」の先行例があります。

またJRの鉄道博物館は、現在、国内に5か所もありますが、いずれも展示に力点を置く博物館です。

日立グループだから創れるこの記念館は、「車両製造工場に直結した体験型記念館」という極めてユニークなコンセプトをもつ事業企画だと、私たちは考えます。

市の直接的な負担は、公園用地の提供だけで済みます。

日立の追加費用は、べんけい号修復、客車トロッコ2両新設、これらの車庫新設、線路300mくらい敷設などの、ざっと2~3000万円位と思われるが、前述のように全国にメディア発信できる広報効果は、1億円を超えるでしょうから、同社にとっては効率の良い宣伝投資だと思われます。

第②案 JR下松駅で「SL展示と定期運行」する

市がこのたびJR貨物から購入した用地に、「SLランド」を作る案です。

笠戸島に放置しているD51をここに移設して静態保存するほか、べんけい号を修復して「動態保存」し、客車（トロッコ）1両を新設して、これらを連結して、定期的に公開運転する案です。これらの車庫も新設します。

（以下、私たちの言う動態保存とは、本機と客車を連結して、子供達を乗せてイベント運転する事を指します）この運転のためには、購入用地に接続しているJR貨物の遊休線路2~300m位を、その時だけ賃借します。

べんけい号の復元作業は、日立に委託するのが良いと思います。

定期運転によって、市外からのリピーターによる地元商店街や、笠戸島への波及効果も期待できます。

（付記、グリーンプラザ内の現有の展示保管庫は、当会所有の「ミニ下松べんけい号」の保管庫に転用して、市のイベント等での、ミニSL運転基地として活用する）

第③案 グリーンプラザ内で下松べんけい号の「動態保存・定期運転」する

現行の展示庫線路の南端に、半径2.5mくらいの「転車台」を新設、またプラザ内に対角方向40mの線路を固定的に敷設して、本機を「動態保存して定期運転」する案です。

運転区間は40mと短いですが、寝たきり老人が動いたことは、市内外への新鮮なアピールです。

前の①②案に比べれば、この案は迫力は落ちますが、生誕114年目のSL復活運転ですから、広報力は大きいと考えられます。

中央公民館祭りや市民総おどり等の従来のイベントと連携することによって、動線が広がり小売機会が豊かになるでしょう。

尚、出来ることならば、恋路運動公園のコスモス畑の周囲に線路を敷設して定期運転すれば、春には桜ともマッチングして、下松市の新しい絵になるでしょう。

4、現行の下松べんけい号の「展示庫の補修等」のお願い

本件につきましては、平成26年4月およびその後、前市長に要望してきましたが、なんらの進展も無く、今日に至っています。

つきましては下記3点について、再度、提案させていただきますので、宜しく御検討願います。

①保管庫関係の改善提案

a ベんけい号本機の防錆処理

市内の塗装業者に相談したところ、本機の塗装状態は良好なので、防錆油塗布だけで良いとのこと。よって この防錆処理を実施願います。

b 保管庫の金属部分の塗装・コーキング

設置後10年を経て、塗装が経年劣化しているため、金属保護のために早い時期の再塗装が必要。また屋根コーキングの補修も必要（かつて雨漏りしていた）です。

c 保管庫に庫内照明・コンセントを設置

- ・目的：夜間のライトアップで目立ちビリティを向上し、保安安全も。
- ・方法：道路側天井付近からのダウンライト2灯くらいを設置して、夜間には自動点灯する方式に。これに併せて庫内にコンセント（100v、10A）をつける。
→（イベント時の音響用等の電源、年末のライトアップなどに供するため）
県道側のカイツカ2本は移植する。

d 「説明板」の更新

現状のものは経年で文字が読みにくい、また記事内容の見直しも必要なところがあります。

②「グリーンプラザ」の名称変更のお願い

- ・理由：現行の名称は個性が乏しくて、市民に殆ど認知されていない。
- ・ご提案：「べんけい号ひろば」と改称する。
但し、この提案書の第①または②案が実現した場合には、この限りではありません。

5、本件についてのお問合せ先

NPO 法人下松べんけい号を愛する会

副理事長（事務局長） 栗田一郎 mp 080-1946-5118

以上